

日本ユネスコ国内委員会科学小委員会
人間と生物圏 (MAB)計画分科会関係活動に関する報告

※所属・職名等は当時のものを記載しております。

MAB 計画 50 周年

MAB 計画が開始して令和 3(2021)年で 50 周年を迎えることから、ユネスコ MAB 計画では、政府や地方自治体のみならず、ユネスコエコパークのコミュニティに関わる研究者、ユース、住民、学校など幅広い層を巻き込んだイベントを展開することを推奨し、様々な取組が国内外で開催されました。

ユネスコでは、MAB 計画 50 周年のウェブサイト을構築し、これまで呼びかけてきた「#ProudToShare」という 1 分間の紹介動画の公開や、各ユネスコエコパークのビジュアル素材の活用によって発信力の強化を図りました。このウェブサイトには、イオン環境財団の協力で作成、公開された日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)による日本のユネスコエコパークのプロモーション動画の英語版も掲載されました。また、この英語版及びロシア語版の動画は、東アジア生物圏保存地域ネットワーク(EABRN)や東南アジア生物圏保存地域ネットワーク(SeaBRnet)加盟国にも共有されました。

また、美術家でありユネスコ親善大使であるヴィック・ムニーズ氏とのアートコラボレーション計画では、世界各国の BR から集めた写真や生地を使用したモザイクアートを作成することとなり、我が国の各ユネスコエコパークから写真を提供し、只見ユネスコエコパークからは写真と併せて布製品を提出しました。

このほか、2021 年から 2022 年にかけて、世界中の中心都市で展示されるユネスコマルチメディア展示会 “It’s about life”展へも、我が国からは白山及び大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパークが参加しました。

このほかに、ユネスコでは MAB 計画 50 周年記念ビジュアル・アイデンティティという複数種類のイラストやエンブレム(日本語版デザイン含む)を作成しており、各ユネスコエコパークのイベント等でこれらの活用を推奨し、我が国で開催された研修やシンポジウムなどでもこれらのロゴが使用されました。





ユネスコ MAB 計画 50 周年ウェブサイト:<https://en.unesco.org/mab/50years>

JBRN による日本のユネスコエコパークのプロモーション動画:

日本語版(YouTube リンク): <https://youtu.be/BtOicniNDQw>

英語版(ユネスコウェブサイトより): <https://en.unesco.org/news/japanese-biosphere-reserves-review-50th-anniversary-unesco-mab-programme>

ロシア語版(YouTube リンク): <https://youtu.be/vQdhZBdGZFU>

第 33 回 MAB 計画国際調整理事会

令和 3 年 9 月 13 日～17 日に、第 33 回 MAB 国際調整理事会がナイジェリアのアブジャでハイブリッドにて開催されました。本会合では MAB 計画戦略に基づくリマ行動計画の履行状況や、MAB 計画 50 周年を祝した取組について共有された他、MAB 若手研究者奨励賞の受賞者発表、生物圏保存地域テクニカルガイドライン、ユネスコエコパークの質の向上等について議論が行われました。なお、ユネスコエコパークの新規登録や拡張及び名称変更、定期的レビューについても審議され、ユネスコエコパークの合計数は 131 か国 727 サイトとなりました。

次回の第 34 回 MAB 計画国際調整理事会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながら、令和 4(2022)年夏頃に開催される予定です。

第 41 回ユネスコ総会

令和 3 年 11 月 9 日～23 日に、第 41 回ユネスコ総会がパリのユネスコ本部において開催されました。

今次ユネスコ総会では、「生物圏保存地域国際デー(International Day for Biosphere Reserves)」及び「国際ジオダイバーシティデー(International Geodiversity Day)」に関する決議がそれぞれ採択されました。

- 生物圏保存地域国際デー(International Day for Biosphere Reserves)
提案国:スペイン、ウルグアイ(我が国は共同提案国の一つ)
これまでもスペイン語圏を中心に 11 月 3 日を生物圏保存地域国際デーとして祝福してきたところでしたが、今後は国連機関による宣言によるものとして、MAB 計画が多様なパートナーと過去 50 年培ってきた科学的イニシアティブや、人と自然環境の調和を推

進することに期待し、毎年11月3日を生物圏保存地域国際デーとすることとなりました。

- 国際ジオダイバーシティデー (International Geodiversity Day)

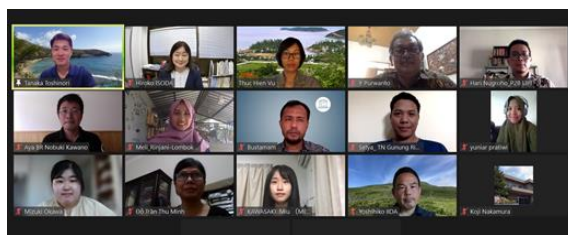
提案国:ポルトガル(我が国は共同提案国の一つ)

人間の幸福及び地球全体の持続可能な管理のため、ジオダイバーシティの重要な役割を強調し、この地球のジオダイバーシティ及び地質遺産の管理に関する一般的な理解向上と国際協力を強化することを目的に、ユネスコ国際地質科学ジオパーク計画の世界規模のイニシアティブ及び世界の地質科学コミュニティの熱心なコミットメントによる幅広く顕著なインパクトに期待し、毎年10月6日を国際ジオダイバーシティデーとすることとなりました。

また、ユネスコ総会下部機関選挙において、我が国は人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会の理事国に当選しました。任期は2025年度のユネスコ総会までの4年間です。

ユネスコエコパークに関するオンラインワークショップ

文部科学省がユネスコジャカルタ事務所等に拠出している科学信託基金(JFIT)事業では、「東南アジアにおけるBRガバナンスの研究」が田中俊徳九州大学准教授を中心に実施されており、我が国からは綾ユネスコエコパークがこの研究に協力しています。



令和3年7月19日に、本研究に関する報告会として、ユネスコエコパークに関するワークショップが開催されました。我が国からは礒田博子 MAB 計画分科会主査、綾ユネスコエコパークの河野円樹コーディネーターらが参加しました。ワークショップでは、Q&A セッションやラウンドテーブルディスカッションを通し、ベトナム、インドネシア、日本の3か国におけるBRの参加者による各BRの紹介があり、会合の最後には、礒田主査より「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」の概要説明が行われました。

東アジア生物圏保存地域ネットワーク(EABRN)によるトレーニングウェビナーシリーズ

東アジア生物圏保存地域ネットワーク(EABRN)では、ネットワークの強化を目的としたトレーニングウェビナーシリーズが、令和3年9月～10月にかけて開催されました。我が国からは、10月27日のウェビナーにおいて、“Using Biosphere Reserves as educational platform to achieve Sustainable Development Goals: Challenges and Opportunities”をテーマにアイーダ・ママードヴァ 金沢大学准教授が講演を行い、“ESD for urban students using Biosphere Reserves”をテーマに松田裕之 MAB 計画分科会調査委員が講師を務めました。

当ウェビナーシリーズは、中国・昆明にて開催された国連生物多様性条約第15回締約国

会議(COP15)第一部の会期中に開催されており、EABRN 事務局を務めるユネスコ北京事務所からは、当ウェビナーにて COP15 において議論されている「昆明宣言」や会議の様子に関する報告も行われました。

第 13 回東南アジア生物圏保存地域ネットワーク(SeaBRnet)会合

令和 3 年 11 月 15 日～17 日に、第 13 回東南アジア生物圏保存地域ネットワーク(SeaBRnet)会合がインドネシアのロンボク＝リンジャニユネスコエコパーク／ユネスコ世界ジオパークで行われました。

我が国からはアイダ・ママードヴァ 金沢大学准教授から ASEAN や諸外国の大学等との連携について共有が図られ、田中俊徳 九州大学准教授からは BR ガバナンスに関する発表が行われました。

なお、本会合は文部科学省ユネスコ信託基金拠出金事業(JFIT)による支援で開催され、会合の冒頭にはユネスコジャカルタ事務所の Hans Dencker Thulstrup 担当官より、日本への謝意が表明されました。会合最終日には、開催地であるインドネシア・ロンボク島の見どころをオンラインで繋いでめぐるバーチャルフィールドトリップが行われました。

日本 MAB 計画連携大学間ネットワークの設立

令和 3 年 11 月 2 日に、金沢大学を中心として、横浜国立大学、愛媛大学、筑波大学、京都大学及び宮崎大学によって、日本各地のユネスコエコパーク登録地コミュニティと連携する高等教育機関が中心となり、連携する登録地コミュニティ等の持続可能な未来を目指す「日本 MAB 計画連携大学間ネットワーク」が設立されました。

本大学間ネットワークは、地球環境と人間の共存を目指す SDGs 教育・研究活動を行う大学が、それぞれの大学の責任の下に可能な範囲で支援しようとするものです。その目的は、加盟大学等が、大学のみならず、連携する登録地コミュニティ等の持続可能な未来を目指すべく情報交換を行い、教育・研究・地域貢献活動の質の向上を図ることにあります。

ユネスコエコパークに加えて、ユネスコ関連プログラムやユネスコ世界ジオパーク、世界遺産、あるいは国際連合食糧農業機関(FAO)の世界農業遺産等とも連携して、それぞれの登録地コミュニティの課題解決に貢献できるよう、今後も大学間ネットワークをさらに拡大させていくこととなっております。

こども霞が関見学デー

令和 3 年 8 月 18 日～19 日の二日間にわたり、こども霞が関見学デーが開催され、日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)が「ユネスコエコパークとふれあおう」と題したオンラインプログラムにて、日本のユネスコエコパークの説明とクイズをオンライン形式で行いました。



みなかみ、南アルプス、白山、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの協力の下、二日間合わせて 28 名の参加がありました。

港ユネスコ協会 40 周年記念シンポジウム「地域が育てる自然保護区-ユネスコエコパーク-」

令和 3 年 11 月 19 日に、港ユネスコ協会 40 周年記念シンポジウム・ユネスコ加盟 70 周年／ユネスコ MAB 計画 50 周年記念事業「地域が育てる自然保護区 -ユネスコエコパーク-」が東京において開催されました。

本シンポジウムでは、MAB 計画分科会の磯田博子主査、松田裕之調査委員、酒井暁子調査委員及びアイダ・ママードヴァ 金沢大学准教授が登壇し、ユネスコエコパークとは何か、どのような活動が行われているのかなどについて講演が行われました。



ユネスコ未来共創プラットフォーム事業

令和元(2019)年 10 月にまとめられた日本ユネスコ国内委員会建議「ユネスコ活動の活性化について」に基づき、文部科学省では令和2年度から、世界や地域の課題解決に資するユネスコ活動の活性化に向けて、ユネスコ活動に関心や実績を持つステークホルダーに加え、SDGs の実現に向けた取組等を進める多様なステークホルダーの知見を得て、国内のユネスコ活動拠点ネットワークの戦略的整備と先進的なユネスコ活動の海外展開を一体的に推進する体制を構築することを目的とした「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」を実施しています。

本事業において、国際的な動向を踏まえた管理運営を推進することを目的とした国内ユネスコエコパークの実務者ワークショップの企画及び開催を日本自然保護協会へ委託し、定期報告に関する情報交換や国内外の事例の共有を図っています。

ユネスコ未来共創プラットフォーム事業ワークショップ

- 第 1 回 「人と自然が共にある未来に向けた新たな関係を築くためのユネスコ MAB プログラム」(令和 3 年 7 月 15 日)
- 第 2 回 「世界遺産とユネスコエコパーク」(令和 3 年 8 月 5 日)
- 第 3 回 「群馬県みなかみ町 地域経済循環における BR の役割について教育旅行での活用事例紹介」(令和 4 年 1 月 18 日)
- 第 4 回 「最新の定期報告事例 海外事例の紹介と国内の BR における作成状況(仮)」(令和 4 年 2 月中旬 ※日程調整中)

MAB 計画 50 周年記念シンポジウム

令和 3 年 12 月 23 日～24 日に「MAB 計画 50 周年記念シンポジウム～これからのユネスコエコパークを考える～」が開催されました。

1 日目は、「MAB 計画と日本のユネスコエコパークのあゆみ」をテーマに、松田裕之調査委員より「これまでの日本の MAB 計画の歩み」について、田中俊徳 九州大学准教授より「日本における BR 活動の現状と未来」について講演があり、只見ユネスコエコパークより「日本のユネスコエコパークのネットワークの歴史と取組」についての紹介がありました。

2 日目は、「ユネスコエコパークとジオパーク」をテーマに、JBRN 事務局を務める只見ユネスコエコパークより、「JBRN と只見 BR の活動」について報告が行われたほか、現在ユネスコ世界ジオパークへ申請中の白山手取川ジオパークより、我が国のジオパークの概要や白山ユネスコエコパークとの連携に関する説明が行われました。

このシンポジウムの開催に際し、ユネスコ北京事務所及びジャカルタ事務所、インドネシア MAB 計画国内委員会からもビデオメッセージが寄せられ、MAB 計画 50 周年と日本の取組を改めて考える機会となりました。

※ワークショップとシンポジウム合計で 6 回の実務者ワークショップを開催予定です。